

環境に係る情報協議会 国営かんがい排水事業 常呂川下流地区

1. 環境に対する考え方

《農村環境の現状と課題》（「北見市田園環境整備マスタープラン」から）

【現状】

常呂川は、自然が豊富で、水辺は動物や植物の繁殖地となっており、豊かな水ときれいな空気を育む森林は、ハイキングや動植物の生態観察など広く利用されており、市民もいろいろなかたちで恵みを受けている。北見市内の森林面積は94,873haで、市のおよそ66%が森林に覆われていることになり、長い年月をかけて形成されてきた天然林には独自の生態系が形成され、貴重な動植物の宝庫となっている。

【課題】

こうした森林の機能を十分に発揮できるよう、中核都市としての役割やバランスを保ちながら、森林環境を維持・保全していくことが今後の課題となっている。

《環境保全の基本的考え方》

本市は、ワッカ原生花園やサロマ湖などの網走国定公園、常呂川や北海道指定天然記念物温根湯エゾムラサキツツジ群落、カタクリ群落や内陸部に生息する貴重な動物など、多様で豊かな自然に恵まれている。

本市の豊かな自然を、開発事業などのバランスを保ちながら保全し、次世代に継承していくためには、市民・事業者の理解と協力が不可欠である。行政は目標達成のための施策を推進するとともに、情報の提供や教育活動によって市民・事業者の意識の向上に努めていく。

2. 環境配慮のための環境調査

《基本方針》

◎調査位置の考え方

本地区の環境は、大きく以下の区域に分けられることから、各区域において調査を行い、本事業における環境配慮対策検討の基礎とする。

河川エリア：河川沿いに隣接する区間（排水機場）

農地エリア：耕作地に隣接する区間（排水路）

◎調査項目の考え方

既往調査結果を活用するとともに、各区域で調査の行われていない項目について現地調査を行っていく。

《環境調査内容》

○調査項目 ①魚類 ②両生・は虫類 ③植物 ④水質

○調査方法

魚	類	：	採捕調査
両生・は虫類	：	目撃法、フィールドサイン法	
植	物	：	植物相調査
水	質	：	SS、濁度